

小中一貫教育だより

鳥栖市立旭小学校
鳥栖市立麓小学校
鳥栖市立鳥栖西中学校

「三訓」
挨拶・時間・清掃

No. 24
H31. 3. 5発行

3月に入りました。早いもので平成 30 年度も終わろうとしています。3校の保護者および地域の皆様には、日頃より、小中一貫教育につきましてご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、12月26日(水)「鳥栖西中学校区冬季研修会」を、國學院大學教授の杉田洋先生をお招きし、給食センター研修室にて開催いたしました。西中校区の3校だけでなく県内各地より多くの先生方に参加していただき、国立教育政策研究所教育課程調査官や文部科学省初等中等教育局教科調査官等を歴任された杉田洋先生の講話を拝聴しました。お話の中で、学級担任は特別活動(学級活動)を通して、クラス・学級づくりの基盤を形成しなければならない。その上で、各教科で育むべき能力を伸ばすという「健全な学級づくり」を進め、心身ともに「健全な子ども」を育てなければならないとご教示いただきました。

今年度最終号の今号では、この研修会の様子の他、西中生を両小学校に迎えた「小中合同のあいさつ運動」、「ようこそ先輩」の様子と、節目として「小中一貫教育研究の成果と課題」を中心に紹介したいと思います。

第2回三校合同研修会 講師:國學院大學 教授 杉田 洋 先生



杉田先生は言われました。「させられてする学習や活動では子どもは伸びない。子どものやる気(意欲)を引き出せる指導を学校も家庭も行いたいものです。」と。



例えば、観た映画を誰かに話せば理解や感動が深まるのと同じで、知識を与えたら「アウトプット(活用)」させることが大事である。杉田先生の話に、会場全体が頷き納得していました。



杉田先生の貴重な講演を聴き、近くの方ともペアトーク。聴いて納得、話して納得のすばらしい研修会に、参加者から喜びの声を沢山いただいています。

《参加者アンケートから(抜粋)》



- 子どもに本当の意味での活用力を身につけさせるためには、子ども主体の場を提供しなければならないなと思いました。
- 特活の大切さを実感することができました。生徒達が主体的に動き、自分の生きたい道を進んでいけるように、教員が環境をつくっていかなければならないと思いました。
- 自分の学級経営について考え直すとてもよい機会となりました。子ども達が自分で考え行動し、自分達で創り上げていくようなクラスをつくっていきたいと思いました。
- アクティブラーニングのために特活、共通ルールや可視化をきちんとして言語活動にも力を入れていきたいです。エジプトでも日本式が取り入れられていることにも驚きました。
- 「クラスという集団を力で押さえつけていないか」ということを、改めて反省しました。学校を社会にする。一人一人を大切に尊重することの大切さを学びました。
- 学級という集団の中で、子ども達が個人としての気持ちや意見を伝えることができるよう、私たち教師はその空気や環境を整えていかなければならないと思いました。本日学んだことを活用していきたいです。

小中合同あいさつ運動

1月23日(水) 旭小
1月30日(水) 麓小



「おはようございます！」小学校の児童玄関に、運営委員会の6年生と鳥栖西中生徒会の元気な声が響きました。



中学生が児童一人一人とハイタッチで迎えました。小学生も自然と笑顔がほころび、いつもより大きな声であいさつができていました。

ようこそ先輩

2月1日(金)
麓小・旭小の両校にて



中学1年生が母校に出向きました。6年生を対象に動画やスライドを使って鳥栖西中学校の紹介を行っています。



中学校で保健分野の柱として取り組んだ「がん教育」。他者の身体の状態を気遣える心根をもちながら、自身の健康をつくっていく力を育んでいます。その一端を小学校でプレゼンしました。

鳥栖西中学校区小中一貫教育研究 まとめ



平成29年度、30年度の2年間にわたり鳥栖市教育委員会から「教育課程特例校における教科『日本語』を中心とした小中一貫教育に関する調査研究」の委嘱を受け、目標を「豊かな人間性を育み、共に高め合う児童生徒の育成～ユニバーサルデザインの考え方を取り入れて～」として実践的研究を進めてきました。

今年度は、学力・活用力の向上に取り組みながら、これまでに取り組んできた教科「日本語」の研究と、学習規律と生活規律に系統性を持たせた「鳥栖西スタイル」の定着化を、ユニバーサルデザイン教育の考え方をベースに据えて取り組んでまいりました。研究の取組は、少しずつではありますが着実に児童生徒に定着し、成果となって表れてきています。下は研究の成果と課題をまとめたものです。

次年度以降も、この2年間の課題を精査し克服しながら研究の成果をより確かなものにしていきたいと考えております。保護者の皆様には今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2年間の実践を集積した『研究紀要』

<UD教育について>

■**成果**：UD教育の3つの観点について、指導者が各自でチェックしUD教育を意識することで、児童生徒が十分に習得できていないことや理解が曖昧なことを把握することができました。意識調査からも、学校全体でもUD化の意識が高まってきているのが分かります。また、説明のためのICT機器の活用が大変有効だということも分かり、今後もさらなるUD化を推進していきたいと考えています。

■**課題**：児童生徒の学習活動における集中力が維持できるような活動ユニットや個別対応の工夫が必要です。今後、日々の授業の中でもいっそうUD教育の視点を持ち、継続的に様々なUD教育の手立てを追究したり、これに関わる情報交換や情報の共有をしたりすることで、分かりやすい授業の実践が必要となっています。



<学力向上・授業づくり部会>

■**成果**：教師主導でなく児童生徒主導での取組のため、学習に意欲的な児童生徒が増えてきています。また、「自学がんばり週間」の取組を通して、意欲的に自学に向かう児童生徒が増えたり、回を追うごとに自学のまとめ方の質が上がってきたりして、学習習慣の定着につながってきました。

■**課題**：「学びのすすめ」は、取り組みに差が見られ、特に他中学校区からの転入教職員には早い段階で内容を十分に伝えることが出来ていなかったため、来年度以降は年度当初に周知徹底する必要があります。「がんばり表」においては徐々にその効果が上がっていることから、児童生徒への更なる意欲付けや個人の変容の視覚化、フィードバックの方法の検討が必要であると考えます。



<生活基盤づくり部会>

■**成果**：三訓については、生徒会事務局（小学校では児童会組織）や委員会との連携により、児童生徒の自主的な活動として定着しつつあります。挨拶も昨年度よりよくなってきたという声を地域の方々からいただいていますし、学校全体が落ち着き生徒指導上大きな問題事案はありませんでした。今後も全職員が同じ意識を持ち共通理解・共通実践をして、凡事徹底に努めていかねばならないと考えています。

■**課題**：三訓の定着は、小学校での定着に甘んじることなく、中学校でさらにレベルアップした取組となるよう意識化していく必要があります。また、取り組む意味を理解させ、実践へとつなげていくための手立てを工夫していく必要があると考えます。



<教科「日本語」部会>

■**成果**：この2か年間、教科「日本語」の校内研究で取り組んだ実績をベースにし、授業の実践・改善を行うことができました。共同活動の場の設定、UD教育の視点に立った授業づくりを行ったことで、多くの児童生徒が安心して、楽しんで授業に参加する姿が見られるようになってきました。

■**課題**：ゲストティーチャーとの日程調整、体験活動の仕組み方、道具の手配などの場の工夫、ワークシートやパワーポイントの作成、画像の準備など授業の準備に手間がかかるという現実があります。今後は効率的に授業を実践していくために、これまでの教材や資料等の有効な整理・保管の仕方を検討していく必要があると考えています。



おわりに

この24号が本年度最後の「小中一貫だより」になります。年間3回の発行ですので三校で研究を進めてから8年間が経過していることとなります。11月の研究発表会を終えたことを最終到達点とせず、これからも麓小、旭小、鳥栖西中の三校でさらにより良い9年間を見通した教育を創っていきたくと思っています。これからもどうぞよろしくお願いたします。

■次年度の予定

- 4月：第1回企画委員会
- 5月：第2回企画委員会
- 6月：小学校→中学校メッセージ交流
- 7月：第3回企画委員会
- 8月：三校合同夏季研修会
- 9月：中学校→小学校メッセージ交流

- 10月：第4回企画委員会
- 11月：中学校説明会・授業体験
授業交流（麓小）
- 12月：第5回企画委員会
- 1月：ようこそ先輩、メッセージ交流
- 2月：第6回企画委員会